

【資料】昭和前期検閲資料

水沢 不二夫

- ①「バット」創刊号発禁申報(熊本縣知事)[1932(S07)年]
- ②篠崎陽一「小林多喜二の作品に就いて」の発禁[1933(S8)年]
「コップ神奈川地協パンフレット」第一号[1933(S08).3]
- ③須井一(加賀耿二)「人絹工場」の発禁[1933(S08)年]
- ④中本たか子「白衣作業」の発禁[1938(S13)年]
- ⑤佐藤貞子編「新体制郷土民謡集」発禁申報(秋田縣知事)[1941(S16)年]
- ⑥『菊池寛戯曲全集』発禁申報(香川縣知事)[1942(S17)年]
- ⑦清水桂一「勝利後の生活」の「保管題号索引カード」[1943(S18)年]
- ⑧特高資料のなかの「新しき村」[1938(S13)・1939(S14)年]
(a)『特高課主幹事務』昭和十三年より (b)『特高課事務概要』昭和十四年より
- ⑨賀川豊彦講演会開催状況「状況報告」・「講演要旨」[1945(S20)年]

【はじめに】

資料はワシントンの議会図書館のマイクロフィルム「日本の検閲和雑誌」、「日本の公文書及び検閲資料」の中のものである。前者は国会図書館、後者は東海大学図書館蔵のものを用いた。①は前者、②③⑧は後者のものである。これらの資料群についての日本文学研究者側からの検証はほとんど進んでいないようである。本稿ではその端緒として、いくつかの資料を紹介する。資料の時期は内務省の書庫が焼失した関東大震災後からマッカーサーによる政治犯解放指令の直前までである。前者の「日本の検閲和雑誌」資料群にも既にある多くの発見をしているが、調査未了のため雑誌編の報告は別の機会

にした。

②③⑥は国会図書館への返還がすでに実現しており、原資料を見ることが出来る。但し、請求は国会図書館編『発禁図書目録』の「特20」で始まる記号に拠らねばならないものもある。請求記号が「特」で始まるものは発禁処分を課されたものであり、戦前は図書館長のみが鍵を持つ部屋で厳重な管理がなされていた。発禁処分関係の書籍、雑誌、書類等は内務省にも保管されていたが、戦後になってGHQ/SCAPが接収し、後にワシントンの議会図書館の所蔵となった。その返還運動が一九七一(昭和四六)年頃に本格化し、一九七六(昭和五一)年七月から一九七八(昭和五三)年十二月にかけ

て計六回の返還が実現した。総数一〇六二点の返還であつた。これらには「特501」から始まる請求記号が付けられ閲覧可能となつたが、副本がある場合はコンピュータでの検索ができない。『発禁図書目録』を使用されたい。

検閲の基準は検閲官でもあつた生悦住求馬が

安寧秩序の觀念も風俗の觀念も共に相對的のものであつて、時と場合とを超越したものではなく、當時に於ける社會環境と密接なる關係を有する。従つて社會環境の變遷に依り變遷するを免れぬ(天正一一、四、大判)。尤も我が皇室の尊嚴竝に國體の基礎に關する觀念は性質上永久不變であり、常に處分の對象たるものと云はねばならぬ。又安寧風俗を害するや否やは當時の社會觀念を標準として全く客觀的に定むべきものである。二と述べているように(時局)に應じて下掲の抽象的な基準を恣意的に解釈して行われた。(もちろんその時局は政治権力の作り出したものであつた。)しかし、恣意的であるにしろその抽象的な基準は資料を見るにあつて参照すべき基礎資料であるので掲げておく。

安寧秩序紊乱關係

- (1) 皇室の尊嚴を冒瀆する事項
- (2) 君主制を否認する事項
- (3) 共產主義、無政府主義等の理論乃至戰略、戰術を宣伝し、若は其運動の実行を煽動し、又は此の種の革命団体を支持する事項
- (4) 法律、裁判等国家権力作用の階級性を高唱し、其の他著しく之を曲説する事項
- (5) テロ、直接行動及び大衆暴動等を煽動する事項
- (6) 植民地の独立運動を煽動する事項
- (7) 非合法的に議會制度を否認する事項

- (8) 国軍存立の基礎を動揺せしめ、或は其の統制を紊乱する事項
- (9) 外国の君主、大統領又は帝国に派遣せられたる外国使節の名誉を毀損し之が為に外交上重要な支障を來たす事項
- (10) 軍事上、外交上重大なる支障を來す事項
- (11) 犯罪を煽動若は曲庇し、又は犯罪人若は刑事被告人を賞恤救護する事項

- (12) 重大犯人の捜査上、重大なる支障を生じ、其の不檢挙により社會の不安を惹起するが如き事項
- (13) 財界を攪亂し、其の他著しく社會の不安を惹起するが如き事項
- (14) 戦争挑発の虞ある事項
- (15) 其の他著しく治安を妨害する事項

風俗壞乱關係

- (1) 猥褻なる事項
- (イ) 春画淫本
- (ロ) 性、性欲又は、性愛に關する記述にして、淫猥、羞恥の念を起さしめ社會の風教を害する事項
- (ハ) 陰部を露出せる写真絵画、繪葉書の類
- (ニ) 陰部を露出せざるも醜惡挑発的に表現せられたる裸体写真、繪画、繪葉書の類
- (ホ) 男女抱擁、接吻(兒童を除く)の写真、繪画、繪葉書の類
- (2) 乱倫なる事項(但し乱倫なる事項を記述せるも措辞平淡にして、更に煽動的淫卑、淫猥なる文字の使用なきときは、風俗を害するものと認めず)
- (3) 墮胎方法等を紹介する事項
- (4) 残忍なる事項
- (5) 遊里、魔窟等の紹介にて、煽情的に互り好奇心を挑発する事項

(6)其の他善良なる風俗に反する事項
特殊的標準

(1)出版物の目的 (2)読者の範囲 (3)出版物の発行部数及社会的勢力
(4)発行当時の社会事情 (5)頒布地域 (6)不穩箇所の分量

【凡例】

一、翻刻のうち、ゴシック体は印刷された活字またはスタンプであることを示す。その他の書体は複数人による手書きの筆跡の違いを示す。

二、印章は当該ヶ所付近に丸印は㊦、角印は㊧と記し、印面の文字は【語注】に翻刻した。

三、資料の新字、旧字はそのままに翻刻したが、略字や当て字についてはなるべく新字にした。

四、翻刻に示した山パーレン、「レ」「○」「◎」は検閲官によるチェックである。「レ」は検閲官が「安寧」または「風俗」に関する記述であることを確認したが、「不問」にすべきという意見、「○」は「削除処分」または「禁止処分」にすべきという意見、「◎」は上官による裁定が原則であると推定される。

また、資料には差別的な表現が含まれるものもあるが、検閲の現場の実態を示す為にできる限り復刻した。差別根絶の立場から、十分に注意して読みたい。

1「バット」創刊号発禁申報(熊本県知事)1932(SOT)年

出版地 熊本縣
印刷 記載無し
発行 一九三二(昭和七)年十月一日

禁止 一九三二(昭和七)年十月一五日
発行所、発行者 不明
※『発禁年表』は「反戦思想煽動」と記している。
※本文の傍線は検閲官によるものと思われる。

昭和七年十月十一日	熊本縣知事	鈴木敬一印
内務大臣山本達雄殿	全意見	㊦
禁止可然哉	出版物發禁伺	(電報ニテ)
バット社ニ於テ發行(發行所及發行人不明)	バット創刊號	昭和七年十月一日付
右出版物ハ階級闘争意識ノ高揚反戦思想宣傳等ノ記事ヲ掲載シ居リ全般的不穩當ノ印刷物ト認メラレ特ニ「何故働く者が貧乏するか」ト題スル記事中「2 帝國主義の段階」ト題シ	熊本縣	
前略 ソレデ日本ブルジョア地主ノ政府ハ	1. 資本家地主ノ一番恐ロシイ敵デアル、ロシアラブツブスタメノ地盤トシテ	
2. 中國ノ革命階級及ヒ東洋ノ革命階級ラブチコハスタメ	3. 日本資本主義ノ原料及市場獲得ノタメ完全ニ滿蒙ヲ植民地化セシタメ	
今ドサクサマギレニ滿蒙ヲ強奪シヤウトシテ居ルノデ中略	ソレデハ我々ハコノ帝國主義戰爭ニ對シテドウシタラヨイカ、判	
リノヨイ諸君ハ言フダラウ 戰爭スル金ガアツタラ米ヲヨコセ	我々無産者ニ祖国ハナイ、ソヴエツト同盟カラ手ヲ引ケ	

[illegible]

《色彩注》白黒のマイクロフィルムのため推定を示す。○は赤。一

重線は赤。二重線の一本は赤、一本は黒。


*1 同じスタンプが二つあって、一つは逆さに押されている。単なる押し間違いと思われる。

*2 「生悦住」の丸印。生悦住求馬（いげずみもとめ）（1900-1993）。当時は事務官。

一九二四（大正一三）年四月東大法学部英法科卒。内務省には最初は警保局図書課の属官として同年五月に入省。一九二六（昭和一）年頃に退局、一九二九（昭和四）年頃に事務官として再入局。一九三六（昭和一一）年頃に退局。一九三九（昭和一四）年頃、書記官、図書課長として再入局するが、一九四〇（昭和一五）年二月までに退局し、地方局監査課長に転。一九四二（昭和一七）年、文部省社会教育局長。「愛国百人一首」選定顧問（一九四二）。^{二二}四代宮城県知事（一九四五・六-一〇）。^{二三}三代千葉県知事（一九四五・一〇-一九四六・一）。戦後は公職追放やれ、学徒援護

会理事長、日本障害者リハビリテーション協会会長（同会総裁は常陸宮）。著書に「出版警察法概論」（松華堂、1993）がある。

警保局の各種の資料に現れる判読が難しい印章物のものである。

 はこの人

「内務省史①」（大霞会・1971）には「図書課

(検閲)

課)には、課長の下に、庶務係・新聞検閲係・単行本係・雑誌検閲係・外字新聞係・著作権係・調査(企劃)係・映画検閲係がおかれ、それぞれ事務官が配属されていて、係長の役割を果たしていた。なお、理事官(検閲課となつてからは検閲官)があつて、課長・係長を補佐していた。たとえば、昭和十五年頃、図書課の新聞係の職員は、属官以上で二〇名程度であつた。」

「事務の性質が即決を要するものが多いので、実際は係長・事務官」を中心に運営されていた。」という。なお、任免の時期は生悦住求馬『思ひ出乃記』^(四) および「職員録(甲)」(所収『内務省人事総覧』一九〇九年、日本図書センター)による。以下、同じ。

＊3 「熊本縣知事印」の角印。

*4 「中里」の丸印。中里喜一。書記官。一九三二（昭和七）年、

警保局入局。一九三五（昭和一〇）年の退局まで図書課長を勤める。一九三六（昭和一一）年、書記官兼事務官として再入局。一九三七（昭和一二）年、退局。

5*

「宮崎」の丸印。宮崎信善、又は宮崎萬吉。兩名とも属官。信善は一九二〇（大正九）年頃に陸軍工兵少尉として入局。一九三四（昭和九）年頃に警保局理事官に昇格。一九四一（昭和一六）年頃に同検閲官。一九四三（昭和一八）年頃に退局。萬吉は一九三一（昭和六）年から一九三二（昭和七）年頃に入局。

一九三九（昭和十四）年六月以前に属官のまま退局。

- *6 「吉井」の丸印。吉井六郎。属官。一九二九（昭和四）年頃に入局。一九一九（大正八）年頃退局。一九三六（昭和一一）年頃に再入局。一九三九（昭和十四）年七月一日現在の「職員録」まで確認できる。以後の「職員録」は属官の記載が無く不明。「出版警察報」41号[1932(SOT).2]には、「主として風俗関係出版物を擔當（福岡、大分、佐賀、熊本、）」とある。
- *7、8 括弧は検閲官による書き込み。色はおそらく黒。

歌曲「インタナショナル」	バット創刊号目次
バット発刊の辞	大内せつ子
A婦人に	佐々木光夫
模範學校とは、こんなものだ	今部 健次
詩“戦争”	長井 健次
講座“何故働く者が貧乏する”	加藤みつ枝
綴方“熊本号反対だ”	ニユース
ソヴェート同盟では“飛行機で種まき”	熊本縣評の確立近し
ソヴェート農村の社会施設	林 京治
プロレタリアと文藝	佐渡 伍一
自力コウセイ	長野 清二
病氣と神様	吉田せい子
詩“母親”	ニユース
全國に手本を示す	沖繩村改革新運動
かせぐに追いつく貧乏なし	山田五十二
キヨウダイヨ!	上野 壯夫 ^{*1}
東北地方の子供	
ソヴェートロシヤ	法律点描

詩“百姓は生かすな殺すな”……澁谷 定輔^{*2}
神

- *1 「上野壯夫」^{うえの そうお}（1905～1979）。詩人。小説家。早稻田高等学院中退。茨城県生れ。「戦旗」編集者。当時はプロレタリア作家同盟中央委員。のち、日本文学報国会小説部会幹事。

- *2 「澁谷定輔」^{しぶや じやうほ}（1905～1989）。詩人。埼玉県生れ。一九三〇（昭和五）年、伊東三郎や埴谷雄高らと全農左派の機関誌「農民闘争」を発行。一九三七（昭和一二）年、ソビエト越境を企画し、五年の実刑。一九五五（昭和三〇）年、日本農文学会の結成に参加。

※なお、雑誌の表紙には次のような印がある。



【発禁処分該当箇所（長井健次の文章）の検閲
る書き込み】

官によ

- 日本政府が見くびつてゐた中國（支那）ではその半分の土地にソヴェート政府（労働者農民兵士の政府）がうち建て
- それで日本ブルジョア地主の政府は
1. 資本家地主の一番恐ろしい敵である、ロシアを
 2. 中國の革命階級及び東洋の革命階級をブチ
 3. 日本資本主義の原料及市場獲得のため完全に満蒙を植民地化せんため、
- 今ドサクサまぎれに満蒙を強奪しやうとしてゐるのだ。
世界にさががけて満州國を承認した事は、ソヴィエトロ

シア、中國ソヴィエツト並に自國のプロレタリアートに戦端を開いた事になる。」

《色彩注》白黒のマイクロフィルムのため推定を示す。○は赤。一

重細線は赤、太線は黒。二重線の一本は赤、一本は黒。

【解説】

「出版警察報」50号(1932(SOT).11)の「禁止要項」には前掲の検閲官の書き込みとは相違して、次のようにある。

本誌ハ謄写版刷ノ雑誌ニシテ、巻頭ニ「インタナシヨナル」ノ歌ヲ掲ゲ、尚、「何故に働く者が貧乏する」ト題スル記事ハ反戦反軍、共產主義煽動ニ渉ルニ因リ禁止セラル。其ノ一部ヲ摘記スレバ左ノ如シ。

(前略)それでは我々はこの帝國主義戦争に對してどうしたらよいか。

判りのよい諸君は言ふだらう。

『戦争する金があつたら米をよこせ』我々無産者に祖國はない。

『ソヴェット同盟から手を引け』

『中國(支那)から手を引け』と。

そして眞に我々の社會を作るためには今までのやうに政治をブルジョアや地主其の手先共にまかせてゐてはならない。

我々は労働者、百姓その他の無産階級は團結してストライキや小作爭議で我々の力を見せて戦争を止めさせねばならない」(後略)すなわち、発禁処分の実務として以下の過程が推定される。①熊本県よりの「申報」に添えられた現品を警保局図書課の属官の宮崎、吉井で下読みをし、細線を引き、○印を付け、生悦住事務官に報告。②生悦住事務官は確認のため二本目の線を引き、念のため全文を確

認し、禁止該当箇所を確定し、図書課長の決裁を受ける。③「日誌」及び「保管題號索引カード」^⑤に禁止事由を記入し、熊本に電報で禁止を告示。④「出版警察報」の作成。

「申報」の引用箇所は検閲基準の「(4)法律、裁判等国家權力作用の階級性を高唱し、其の他著しく之を曲説する事項」、「(6)植民地の独立運動を煽動する事項」、「(8)国軍存立の基礎を動揺せしめ、或は其の統制を紊乱する事項」、「(3)共產主義、無政府主義等の理論乃至戰略、戦術を宣伝し、若は其運動の実行を煽動し、又は此の種の革命団体を支持する事項」に抵触している。この基準は「(1)皇室の尊嚴を冒瀆する事項」に始まって、事項の重要順に並べられている。「出版警察報」は輻輳する発禁事由のなかで(8)(3)に適合させて説明しているようであるから、この偏向からは当時の内務省の世論操作の意向が判るとともに「出版警察報」にはこのようなフィルターがかかっていることを示唆してくれる。

【参考】渋谷定輔の作品(抄)

“百姓は生かすな殺すな”

渋谷定輔

何等教養の機会も與へられなかつた俺達はむづかしい理論や学説は一向判らない。だが仲間よ

百姓は生かすな殺すな

と彼等から永いこと惠まれて來た

此の有難い言葉を

(いいか、アリガタイこの言葉を)

しつかりと脳味噌にきざみつけ

暗黒な大地のどん底より爆焼して

(うん赤旗をおし立て)

彼等に恩を返せばいゝんだ

そこから正しい生産者自治の世界がはじまり

そこから俺達の本當の生活がはじまる

然り！そこに はじめて

正しい人類の創造生活がはじまるのだ！

神

オワリ

2 篠崎陽一「小林多喜二の作品に

就いて」の発禁「1933(S8)年」

コッブ神奈川地方協議會「マルクス50年祭記念讀書週間のために」

「コッブ神奈川地協パンフレット」第一号

印刷 一九三三（昭和八）年三月十七日

発行 一九三三（昭和八）年三月十七日

禁止 一九三三（昭和八）年八月 四日 発禁処分

【表紙】

神奈川県申報

三月二十五日電報済（鈴木）

圖書課長印

印

禁止可然哉印

【目次】

目次

巻頭言

マルクス

万才

コッブ

神奈川地方協議会

山城静雄

レーニン

「マルクス五十年祭」に際し

開拓者の歩める道を訪ねて

小林多喜二の作品について……………篠崎陽一

【発禁処分該当箇所】

小林多喜二の作品に就いて

——「工場細胞」まで——

篠崎陽一

我々の持つ最も勝れた小林多喜二が去る二月二十日敵の手によつて死の道へもぎ取られてゐた。丁度一年前の三月六日、神奈川会館で開かれた文芸講演会へ講師として出席し、我々の前に親しくその元氣な姿を見せてくれた丈に彼の死は我々にとつて一入感慨深いものがある。私はこの小論を彼の亡骸の前に供へ、且つ彼を虐殺した敵階級への復讐の誓ひの印としたい。 ※以下略

《色彩注》傍線、パーレン、○は赤。◎と「虐殺した」は黒。

【語注】

*1 「中里」の丸印。図書課長中里喜一。『内務省人事総覧』（前出）には一九三三（昭和八）年七月から一九三五（昭和一〇）年一月まで見える。

*2 「鈴木」は神奈川県の特高の担当者。図書課員ではない。

*3 「宮崎」の丸印。宮崎信善または宮崎萬吉。①の印と同じ。①の語注5参照。『出版警察報』62号[1933(S08).10]では宮崎信善は「新聞係」の主任となっている。「新聞係」は雑誌も担当していたから、*5の属官の大石が下読みし、報告した事を示す。『内

務省史』(大霞会1971)は「宮崎理事官とか大石検閲官などという検閲のベテランがおつて、…よく事務官を補佐していた」という。大石は*5参照。

*4矢印は禁止意見を付した検閲原本の稟申の順序を示している。1にも同様の矢印が見える。

*5「大石」の角印。但し、「宮崎」の丸印よりも小さい。属官の大石芳。『内務省人事総覧』(前出)の一九三二(昭和七)年七月から一九三八(昭和一三)年七月までその名が見える。「出版警察報」62号(前出)では「新聞係」の「新潟、富山、石川、福井、長野」の担当になっている。*3参照。

【解説】「出版警察報」は翌月に前月までの分を掲載するが、該当する60号(1933(S08).9)には記載が無い。

表紙には手書きで「電報済」とあるので、発売頒布禁止処分を受けたことは取えて疑うまでもない。傍線部分は冒頭に掲げた検閲基準の「安寧秩序紊乱関係」の(5)テロ、直接行動及び大衆暴動等を煽動する事項」に該当している。

3 須井一(加賀耿一)「人絹工場」の 発禁[1933(S08)年]

「真理の友叢書第二輯説小人絹工場」真理の友社発行 ガリ版刷
著者 須井一 発行日 記載無し 定価二銭

印刷日 記載無し

印刷者及び住所 記載無し

発行者及び住所 記載無し

禁止 一九三三(昭和八)年八月四日



※表紙に前掲のスタンプが押されているが、整理番号の記載はない。

【発禁処分該当箇所と単行本校正刷からの復元】

P5	P5	P4	P4	P3
◎	◎◎		◎◎	◎◎
否人絹工場は直ちに軍事品工場に変更することが出来るので軍部の補助はバク大なるものだし 否、軍事的意義をもち——レーヨン工場は戦争になると火薬工場に早替りする——	資本は絶えず新しい犠牲者を募集してゐたのである。 資本は絶えず新しい犠牲者を募集してゐたのである。	為替安と満州戦争のバク禁製造で景気がよかつたからでもある。 為替安と満州戦争のバク禁製造で景気がよかつたからでもある。 為替安と満州戦争のバク禁製造で景気がよかつたからでもある。 為替安と満州戦争のバク禁製造で景気がよかつたからでもある。	上の命令では来る十一月七日ロシア革命記念日までに処女地たる○○県の四井軍事工場に少なくとも二十人の組合員を獲得することが指示してあつた。 人の組合員を獲得することが指示してあつた。 人の組合員を獲得することが指示してあつた。 人の組合員を獲得することが指示してあつた。	従つて彼の斗争決意のかたさは労働組合や共産党の指導者たちと少しも変りがなかつた。 従つて彼の斗争決意のかたさは、党中央部の有名な指導者たちのそれと少しも変りがなかつた。 従つて彼の斗争決意のかたさは、党中央部の有名な指導者たちのそれと少しも変りがなかつた。 従つて彼の斗争決意のかたさは、党中央部の有名な指導者たちのそれと少しも変りがなかつた。

P24	P22	P13	P12	P12	P8
◎○ 『あの野郎を「ぺんやつ」つけてやる方法は無えもんか』	◎ 義務は強制的であつた。 軍隊から派遣された将校による、あの驚くべき体操の義務は強制的であつた。	◎ 果たしてこの俺がこの軍事的支配の行届いた鉄條網を破れるだろうか？ 果たしてこのおれが、この素晴らしい反動の鉄条網を破れるだろうか？	◎ 『帝国主義戦争は近づいてゐる！』 『なる程大戦争は近づいてゐる』	◎ レーヨン工場は軍需工場であつた。一朝事あるときには其処における労働者は、忽ち軍隊の指導下に労働しなければならなかつた。 レーヨン工場は軍需工場であつた。一朝事あるときには其処における労働者は、忽ち軍隊の指導下に労働しなければならなかつた。	◎◎ いや資本主義制度を破壊しようとする前衛達は常にこれほどの苦勞を重ねてゐるのだ。 いや、闘士たちは大衆の解放のために常にこれほどの苦勞を重ねてゐるのだ。

P26	P25	P25
◎ な三公、ストライキぐらゐ……	◎ みなな団結して会社へねじこめッ！ て……	◎ 『あ、全協？』 団結して横暴な会社へねじこめッ！ て……
◎ な三公、ストライキぐらゐ……	◎ 『あ、全協？』 団結して横暴な会社へねじこめッ！ て……	◎ 『あ、全協？』 団結して横暴な会社へねじこめッ！ て……

《色彩注》◎一つは赤、○は黒。◎二つの一つは赤、一つは黒。傍線の一本線は赤。二重線の一本は赤、一本は黒。

【語注】
*1 「寄宿監督」を指している。
*2 登場人物の一人。

【解説】
印刷日、印刷者、発行者、発行日についての記載が無いのはそれだけで出版法違反であつた。表紙裏には「眞理の友叢書第二輯」とあるが、第一輯は著者不明の「身分制の話」であり「人絹工場」の前部ではない。ちなみに「身分制の話」も発禁処分を「人絹工場」と同様に一九三三（昭和八）年八月四日に受けており、さらに「マルクス50年祭記念讀書週間のために」とも同じ日であることは偶然であろうか。

形態的はいわゆる「十銭パンフレット」に属している。「十銭パンフレット」は「出版警察資料」（1936）によって次のように定義されている。

(一) 定價十錢乃至三十錢のもの（無償配布は除く）

(二) 主として驛及ブラットホームの賣店、街頭のスタンドにて販賣せられ

(三) 體裁は四六判にして社会的、或ひは暴露的、興味本位的題材の出版物を謂ふ

また、「所謂十錢パンフレットが世に表はれ始めたのは昭和七年頃からのこと」とも述べられ、統計値も示されている。すなわち昭和七年は五五二三点、八年は五四六八点、九年は七一七点、十年は一〇〇二一点であった。本誌は定価二錢であるが、このような動向のうちにあると思われる。

また、末尾には「須井一作労働者源三より」ともある。「労働者源三」は小田切秀雄編『発禁作品集』（1935北辰堂）に復刻されており、小田切はその「解説」で次のように述べている。

『労働者源三』は当時の筆名須井一の名で『改造』昭和八年一月号に発表され、伏字だらけであったが、のち第二部、第三部を加えて同名の単行本として出そうとしたとき、この第一部は発表を許されず、第二部、第三部だけがほかの短篇と一緒に本になるという奇妙な形になった。いま作者の手もとに禁止部分の校正刷が保存されていたので、こんどはじめて伏字なしで発表されるわけである。

資料に示した「単行本校正刷からの復元」はこの本に拠っている。

また、掲出した部分と相互に比較すると国会図書館蔵本の禁止本の『人絹工場』の方が全体に過激な傾向があり、こちらが先行テキストではないかとの印象を受けるが、末尾に「須井一作労働者源三より」と記述があつてその意味が分からない。『人絹工場』は『労働者源三』の第二章から第七章の半分（「彼はなんだか」で始まる段落）

までに該当しており、前後の欠落の理由も分からない。第三者が『労働者源三』を勝手にガリ版で刷ったものにしては、『人絹工場』の表現は過激である。或いは作者自身が第三者が勝手に発行したかのごとくに装って流通させた可能性もあるが、断言はできない。ともかく、両者の相違点は他にもたくさんあり、全翻刻が望まれる。

発禁は②が二つ記されている箇所が検閲基準（安寧）の「(3) 共產主義、無政府主義等の理論乃至戦略、戦術を宣伝し、若は其運動の実行を煽動し、又は此の種の革命団体を支持する事項」に該当したのであろう。

須井一の名は当時は執筆活動を禁じられていたために小学校を首になっていたある青年を「須井一」に仕立て、その影で執筆していたためである。しかし、その青年も「共産党シンパ事件」で逮捕され、以後小説を書かないことを交換条件に釈放されることになり、「加賀歌二」を用いたという（谷口善太郎『日本プロレタリア小説集⑤』三一書房「解説にかえて」参照）。

この須井一＝谷口善太郎＝加賀歌二（1896-1974）の自伝的小説の『綿』（1931昭和6）はプロレタリア文学史上の代表作の一つのように評価されている。他に『清水焼き風景』（1932昭和7）、筆名を加賀歌二に改めた『工場へ』（1934昭和9）などがある。資料の一九三三（昭和八）年には宮本百合子が「二連の非プロレタリア作品」（『プロレタリア文学』一月号）、「前進のために」（同四・五月合併号）で須井一も取り上げ、小論争が起き、高見順「須井一論」（『季刊批評』第二冊）もあり、同時代において須井一は話題の人物であった。須井は戦後は衆議院議員（共産党）として活躍し、通算六期を務めた。

4 中本たか子 「白衣作業」の発禁

[1938(S13)]

発行 一九三八（昭和一三）年二月一日
禁止 一九三九（昭和一四）年三月二九日
部数 初版二千部^⑤ 出版地 東京 出版社 六芸社
頁数 二八八頁 版型 縦192mm、横127mm。
区分 安寧秩序紊乱及び風俗壊乱による削除処分
【表紙裏右下】 【目次】

安禁 風禁	14. 3. 29
白衣作業	12. 9月
目次	
1 白衣作業……………	—
2 未成年達……………	一九一
3 獄中の統率者…………	二〇八
○文藝	13. 4. 5
○「作品	
○いのち	

《色彩注》「安禁」「風禁」のスタンブは赤。日付は黒。手書きの○と傍線は青鉛筆。日付、斜線、初出誌は黒鉛筆。
【検閲原本】 P123

七番は暫く、光の乏しい板の間に倒れたまゝで、太く息づいてゐたが、やがて自ら放り出したまゝである自分を見て、嘲笑の唇を歪めた。大衆は、あれ、あの通り働いてゐる、進んでゐる。それなのに、すべてを投げ出して、ゼロに立止つてゐるのは誰だ？ これが嘗ての、あ

の行動に参加した一人であるか。労働者農民大衆を解放しようとして行爲した一員であるか。この位の事にへたばつちや、臍が茶を沸かさず、臍が茶を茶を……。

《色彩注》^⑥「^⑦は赤。二重線の一本は青。一本は赤。傍線の一本は赤。」
赤。傍線の一本は赤。二重線の一本は青。一本は赤。

七番は暫く、光の乏しい板の間に倒れたまゝで、荒々しい感情をかきたてゝ、太く息づいてゐた。その感情の渦の中から、次第に冷静かな反省が育つて来て、すべてを投げ出してゼロに立ちどまらうとする自分を鞭打つて来た。それは丁度、心臓へぢかに鞭をあてたやうな痛みとなつて、彼女の全身をのたうつた。彼女は自分を嘲笑するため、唇を歪めた。——この位の事にへたばつては、臍が茶を沸かさず、臍が茶を茶を。……

【検閲原本】 p124

彼女が作業臺に歸つて、また自分一人になると、鋭い反省の念に胸をいためた。これしきのことに參つて、仕事を投げ出すとは何だ？ 同じく受刑してゐる良人や、過去の同志達は今どうしてゐるか。社會で働く民衆は、どうしてゐるか。自分の怠けてゐるその時間に、日本の、世界中の働く民衆は傍目も振らずに働いてゐる。職場に、汽船に、鑛山に、鉄道に、熔鑛爐に——。それら働く民衆との連帯を、一瞬も忘れてゐられやうか？

《色彩注》パーレーンと傍線、○は赤。◎は青。

【普及本】

彼女は作業臺に向かつて、また自分一人になると、鋭い反省の針に胸を刺された。胸は、丁度圓盤レコードのやうにいたみ廻つて、記録された過去の感情の振幅を反省の針に傳へ、一人ではとてもたえられない程の大きな波動に喘いだ。その波動の中に彼女の良人や、同志や、また社會で働いてゐる人々の姿が大きく映り上つた。それらは圓盤レコードが外へ擴がつて行くやうに、世界大となつて、彼女の最も深い思念を叩きのめした。

【検閲原本】

p155
p156

○
○
たとへ身はどこにあつても、人間としてするだけの事をしてゐるんですよ、私は。あなたの言ふやうな目の先きのことで働いてゐる人間が、我々の仲間にあるでせうか。あるにしたつて、それが全部ぢやないでせう。私が最初、教誨に出してくれと願つたのは、この受刑者大衆に接触したいからでした。又、私が支所長の所へゆくのは、何の目的で行くと思ふんですか。私はこの受刑者大衆のために、仕事の科程を負けて貰つたり、食物をよくして貰つたりするやうに願ひに行くのですよ。勿論、先方にあまり歡ばれることぢやないけれど、私はじつとしてゐられないのです。こゝはこゝで、すべきことがあるものね。」

《色彩注》パーレーンと○一つは赤。○二つのうちの一つは赤、

一つは青。一重傍線は赤。二重傍線の一本は赤、一本は青。

【普及本】

たとへ身はどこにあつても、人間としてするだけの事をしてゐるんですよ、私は。人間として、一番人間らしい人間になりたいために、私は精出してゐるのです。賞表や假釋放を目あてにしなければ、働けないものでせうか。他人はともかく、私だけは、働くことが生きることなんです。それから私が教誨に出してもらつたのは、お経がよみたいからではありません。そのことや、受刑者の状態が知れたかつたのです。そして、受刑者の氣持や、食物や、その他待遇を知つてくれば、それをよくするためには、支所長とも話しあつてみなければならぬ。私はちつとしてゐられないのです。こゝにはこゝで、すべき事があるものね。」

【検閲原本】

p158

◎ ○
「さうです。何で私達に、一刻でも社會のこの人達¹のことが忘れられるもんですか。働く人達を考へればこそ、今日こゝにあることも辛抱が出来、又、こゝでも一生懸命働かなければならないと思ふのですよ。私達は、一般の受刑者大衆と一緒にたになつてはなりません。だが、一般受刑者も亦、かうして働いてゐれば、廣い意味では社會の働く民衆の一部ともなるものよ。私達は、行きついた處の歴史的段階に應じて、大衆と一緒にゐなければ、何の意義もないと思ひますよ。」

《色彩注》パーレーンと○は赤。◎は青。一重傍線は赤。二重傍

線の一本は赤、一本は青。

【語注】*1普及本の変更はなぜか「この人達」が「働く人達」

に成っているのみで、文脈の変更はない。

【検閲原本】

p202

「あんた、一緒に寝るのは反則だから、早く帰りなさいよ。」

「うん。」

◎
○
「一〇番は領いたが、ごくそくと手を伸ばして、九八番の乳を握った。九八番はびつくりして、あわてゝて一〇番の手を拂ひのけた。」

「あんた、何するの？」

「黙つといで——。」

「一〇番は拂はれた手で、今度は又、九八番の股を探り出した。九八番は驚いて飛び起きた。そして怒つて、一〇番を鋭く睨みつけた。」

「もう、お歸り、何をするの、あんたは。」

《色彩注》パーレーンと○は赤。◎は青。一重傍線は赤。二重傍

線の一本は赤、一本は青。

【解説】

国会図書館には三冊の「白衣作業」が所蔵されている。

一つ目は検閲原本で、検閲官による書き込みと発禁の事務手続きの痕跡（スタンプ等）が残っている。

書き込みのある頁は斜めに二重に折つてあり、はみ出た部分は酷く汚れている。検閲官による折り跡と思われる。

傍線は赤が多く、一部はその上に青で引かれている。赤は属官による下読み、青は事務官や理事官などの上官による確認と思われる。

書き込みのある頁は1、9、10、17、20、31、32、36、43、45、50、53、75、88、89、122、124、125、144、147、148、151、152、153、154、155、156、158、159、171、172、173、175、189、202、211、228、266、287頁である。この他、表紙裏と目次にある。

「出版警察報」一一七号(939)には安寧について「左翼的信念ノ再把握ヲ試ミツツアルガ如キ点」「一二三、一二四、一五八頁削除」、風俗について「女囚間ノ同性愛ノ描写」「二〇二頁削除」とある。また同誌の統計によれば発行二千部に対して七三七部が押収されている。そのうちの六三二部は東京であった。

二つ目は「削除処分」の三箇所の該当箇所の三枚(六頁)が切り取られているものである。内務省へは一八九三(明治二六)年の改正「出版法」によつて二冊の納本が義務づけられ、そのうちの一冊は帝国図書館に送られた。これらの内務省交付本には通常は日付入りの「内交本」のスタンプがあるのだが、国会図書館員の説明では、必ずしもその印はあるものではないとのことであり、帝国図書館から引き継がれた内交本と判断される。この本は121頁から124頁、155頁から158頁、201頁から202頁が切り取られ、それぞれ直前の頁に「第一二二頁―一二四頁削除」、「第一五五頁―一五八頁削除」、「第二〇二頁―二〇二頁削除」とあり、「帝國」という帝国図書館のものらしき印が押されている。なお、この「白衣作業」は再製本され、削除頁には赤い紙が入れられている。そして表紙には「事故本」という付箋が貼り付けられている。

三つ目は「普及本」と銘打った一九四〇（昭和一五）年のもので
検閲原本の削除処分の頁のうちの該当箇所と1頁の序文のみが書き
直されている。発禁本の序文にも多少は過激な発言を含むが、「普及
版発行について」と題される以下の文が付けられている。

なにも古びた旗をはためかせたかつたのではなかつたが、先に
発行した「白衣作業」は四頁の削除にあひ、表裏合わせると八頁を
失つたので、折角の讀者諸氏にご迷惑をかけることが大きかつ
た。そこで今回、この作品を惜しんでくださる人々のご好意に促
されて、削除の分を訂正して新たに普及版を世におくることにし
た。何卒これによつて先に満たされなかつた方々は補つて頂きた
い。

このなかの「四頁の削除にあひ」は「未成年達」の削除は含まない。「普
及本」は「未成年達」「獄中の統率者」を入集していないため、「未成年
達」の削除を勘定に入れていないので四頁となる。また、122頁には変
更がないので掲出ししない。123頁には掲出部の前に8行ほどやはり変
更のない本文がある。（削除本は頁単位での切り取りになっている。）
奥平康弘は「処分該当箇所・理由などは、一時なるべく関係者に
教示するよう示達されているが、のちにはただ斬捨御免が例となり、
関係者といえども、どこが、なぜ悪いのか、五里霧中の状態を余儀
なくされるにいたる。」と述べている。すなわち、作者・編集者の
自己検閲による部分改訂と、該当箇所・理由の示達による改訂との
二つの可能性がある。しかし、この部分改訂の事実には作者にまで「削
除処分」の該当箇所が告知されていたことを示して興味深い。

**5 佐藤貞子編「新体制郷土民謡集」
発禁申報（秋田縣知事）[1941(516)]**

印刷	一九四一（昭和一六）年五月二〇日
発行	一九四一（昭和一六）年五月三〇日
申請	一九四一（昭和一六）年六月一〇日
禁止	一九四一（昭和一六）年六月三〇日
出版地	秋田
版型	四六版
頁数	一二頁
出版者	佐藤貞子
区分	風俗壊乱
削除処分	

検閲課長 スミ¹

事務官 ②²

特高秘發第八一二號

16. 6. 30

昭和十六年六月十日

秋田縣知事

岩上夫美雄

記帳済⁵



秋田

石川³

p. 4 削除

内務大臣 平沼騏一郎殿

出版物發賣頒布禁止処分ノ件稟申

p. 4 ノ歌詞ハ大正十一年流行ノモノ
當時浮薄ナモノトシテ問題ナリ
シモノ、風俗削除可然哉⁶
p. 1³ ノ指摘箇所ハ地方民謡トシテハ
程度輕キモノナルガ故ニ

管下 仙北郡角館町

佐藤貞子

風俗不問可然哉⁸

右者發行兼編輯ノ「新体制郷土民謡集」本、全人ヨリ
出版届出有之モ右民謡集中
(レコード検閲口
連絡スミ)

秋田おばこ節

一頁

秋田甚句

三頁

尚本書ハ口
ノモノ

神 精 民 國

レ

おぼこなぼになるこの年春暮らせば十と七つ
 十七おぼこなど何しに花コなど咲かぬと
 咲けば實もなる咲かねば日かげの色紅葉
 おぼこつくつた酒にこり酒のあまいので砂糖酒コ
 なんぼあまいてもおぼこさへも酌にたてば三バイ飲む
 飲んでたのやせぬ沖の船の二階座敷で氣を晴らし
 おぼこ何處へ行くうしろの小山コへほんなコ折るに
 ほんなコ若いとてこだしコ枕にさわなりに

オイサカサツサオバコダく
 「相の手同じ」
 「相の手同じ」
 「相の手同じ」
 「相の手同じ」
 「相の手同じ」
 「相の手同じ」
 「相の手同じ」

秋田おぼこ節

*9

*9「おぼこ」は東北地方の方

言で、未婚の娘の意。「おぼこ節」は同地方の民謡。

*10「国民精神総動員」は一九

三八（昭和一三）年四月の
 国家総動員法を受けてのもの。
 これによって検閲基準
 も安寧秩序紊乱、風俗壊乱
 に、国家総動員法違反が加
 わる。

p1

*2「石井」の丸印。石井榮三。事務官。一九四〇（昭和一五）年

【語注】
 *1検閲課長は高橋三郎。書記官。一九四〇（昭和一五）年一二月
 六日、内務省分課規定改正により図書課は検閲課と改称した。
 手書きの「スミ」は課長の承認済みの意か。高橋の名は一九四
 一（昭和一六）年八月の名簿に見える。

江差追分
 後本前
 唄 四頁
 ※原資料破損
 ノ歌詞ハ何レモ風俗壊乱ノ虞アルモノト被認ニ付發賣
 頒布禁止處分相成度
 尚ホ現時局下ニ於テ斯カル歌集ノ普及ハ銃後民心ヲ弛緩セシメ事變處理ニ支
 障ヲ招來スルモノト思料シ嚴重處置ヲ至當ト認メラルヲ以テ何分ノ御指示
 相成度
 右稟申候也
 （現品一部添付）

八月の名簿からその名が見える。

*3「石川」は秋田県の特高の担当者名と思われる。

*4「三輪」の丸印。属官、三輪貞兼。「出版警察報」89号[1936(S
 二).2]には「思想關係、文學、哲學」の担当とあり、他の資料
 にも頻出する重要人物。「出版警察報」41号[1932(S二).2]には、
 「主として風俗關係出版物を擔當」「志賀、岐阜、岡山、奈良」、
 同62号[1933(S二).10]には「社会、哲學（左翼モノ）」の担当
 とある。一九三〇（昭和五）年入局。

*5「記帳済」のスタンプ。「日誌」や「保管題號索引カード」への
 記録済みの証。

*6「風俗削除可然哉」のスタンプ。属官の中村の意見。

*7「中村」の丸印。中村忠か。一九三九（昭和一四）年七月の名
 簿にその名が見える。属官。以後の名簿は属官の記載が無いた
 め、確定できない。

*8「風俗不問可然哉」のスタンプ。属官の中村の意見。

調強¹⁰員動總

おぼこ来るかとたんぼのはずれまで出て見れば
おぼこ来もせず用のないたばこ賣りなどふれて来る
おぼこ心持池のはたのはすの葉のたまり水
すこしさわるるときころくころんで来てそばによる

「相の手同じ」
「相の手同じ」
「相の手同じ」
「相の手同じ」

秋田秀子節

十七コナーエー今朝ナー朝草どこで茹たなこの秀子ナー
どこで茹たナーエー日星ナーながねのその下でなこの秀子ナー
その下でナーエーくぞのナー若ばいはびる草なこの秀子ナー

秋田甚句

花の松前つぼみの江差
お前吹く風妾飛ぶ木の葉

ア、オイサカサツサキタサカサイく

何處で落ちるも風次第

「相の手同じ」

江差追分

前唄

逢ひたさ見たさに怖さを忘れ

ヤンサノエー

逢ひに來たのに何故出て逢はぬ

いつも呼ぶ聲忘れたか

嘗テ此ノ歌詞ハ國
民ニデカタン思想
醸生^{ミヅ}セシムルモノトシ
テ禁止

*11前頁のこの部分には「國を
守つた傷兵護れ」とあり、

ここには「座席は先づ傷痕
軍人に」とある。

*12この部分には「東洋の日本
ヨリ世界の日本へ」とある。

*13この部分には「民謡と健康
増進」とある。

*14この頁にも赤と青のチェツ
クがあるが、「申報」及び
「出版警察報」には記載が
無い。

《色彩注》丸印およびパーレー
ンはそれぞれ一つは赤、一
つは青。

【解説】

印刷日と発行日の十日前であ
るのは一八八七（明治二〇）年
改正の出版条例十三条の十日前
までの見本提出の規定を踏襲し
たもの。一八九三（明治二六）
年に出版条例は出版法に成り、
三日前提出となった。現在でも
十日のズレを踏襲する有斐閣な
どの出版社がある。

「出版警察報」138号[1941(S16).

p5

* 13

米山甚句

青柳

流行歌くづし

唄

「初戀にやぶれた」

男の眞心は

流轉

「意地は男よ情は女子」

まゝなるなら男を捨てゝ

俺も生きたやくゝ戀の爲

唄

「まゝよ三度笠横ちよにかむり」

エ、旅の空く

本唄

いつも呼ぶ聲忘れはせぬか

出るに出入れぬかこの島

後唄

かこの鳥でも智意ある鳥は

人目忍んで逢ひに依る

但シ歌曲ヲ異ニス

「こには「籠の鳥」歌詞浮薄低調により削除」とあり、「申報」も「風俗壊乱」を挙げているが、同時に「現時局下」と述べられているように、日中戦争下に於いての「時局」という極めて恣意的な解釈が可能な検閲基準が地方庁にまで浸透していたことを示している。翌一九四三（昭和一八）年七月二十二日の内務省警保局検閲課「警保局検閲係資料」（米国議会図書館Microfilm Orient Japan38-6-6）には「娯楽ノ美名に匿レテ觀客ノ低調卑属ナル趣味ニ迎合シ或ハ生硬ナル時局便乗的言動ヲナシ反ツテ反對ノ効果ヲ生ズル惧レアルモノニ對シ適切ナ指導ヲ加ヘルコト（傍線水沢）は「低調」の語を意を明らかにしている。つまり、戦争協力的でも、表現の拙いものは不可であったということである。本資料はレコード検閲としても、「低調」による処分としても極めて貴重な遺例である。処分の経緯はまず申報を受けて属官の中村が4頁の「風俗削除可然哉」と1、13頁の「風俗不問可然哉」との意見を付け、石井事務官に申告。石井は内容を確認し、処分を決定し、検閲課課長に報告。申報元の秋田県の特高に連絡し、「処分日誌」「保管題号索引カード」等に記帳。

6 『菊池寛戯曲全集』の出版物
行政処分申請（香川県知事）

十七 ^{*1} 発特高秘第八四五號 昭和十七年十一月九日	内務省 警保局 昭和17.11.16 第 607 號 受 附
香川縣知事 小菅 芳次 ^{*3}	
検閱課長 ^{*2} 事務官 ^{*4}	
内務大臣湯沢三千男殿 一、本書は初版以後発行し居る 特殊部落の夜ハ横書き主として戯曲ナリ 尚リ口ノ一編絶版可然 尚リ口ノ二編絶版可然 作者ニ再録セザル様通達可然 ^{*5} 内務省ニ再録セザル様通達可然 ^{*6}	
出版物行政処分ニ関スル件 ¹⁶ 警し庁（飯田） ^{*7} 香川（長尾） ^{*9}	
一、題 號 菊池寛戯全集第一巻	
一、発行所 東京市日本橋区通中四丁目五 春陽堂	
一、発行月日 大正十年五月二十一日	
右出版物ハ著作著者菊池寛ノ作品タル戯曲ヲ	
鬼集シタルモノト一部ナル處右ノ内 特殊部落の夜（目次 ¹⁵ 五頁後序二頁） ト題スル記事ハ「キリスト」教牧師ノ要改善地 区ニ於ケル布教ノ状況ヲ取材セルモノナルガ其ノ間 管下 高松市××町 ^{*10} （旧香川縣香川郡××村）	
ノ要改善地区ノ状況ヲ紹介シタルト認メラレ殊ニ 同地区民ガ特ニ癡惡ニシテ且ツ本件ニ對シ警察取 締モ傍觀的態度ナルガ如キ印象ヲ與ヘ安寧 風俗ヲ紊シ特ニ現下同和事業ノ完遂上極メテ 悪影響アリト認メラル、ニ付右末處分ナレバ此ノ際相 當行政処分相成様致度	
右稟申候也	

追而右ハ要改善地区民	
管下 高松市××町	
古物商 ×××	
當 三十三年	
ガ同戯曲全集古本ヲ	
管下 高松市栗林町	
古本屋 石井 虎太郎方	
ニ於テ入手ノ結果右記事ヲ発見差別事件トシテ 糾彈計画ナルヲ所轄高松署員ニ於テ偵知 直チニ糾彈敢行ノ不穩當ナル所以ヲ諭示シタル ニ一應之ヲ了セルモ尚推移注意中ニ有之 尚右出版物（戯曲全集第一巻）一部参考ノ爲 メ送付候条御用済ノ上ハ御返戻相煩度候	
香 川 県	

【語注】

*1「十七発」は「県知事発」の暗号。例えば山形縣特高課『出版警察執務要項』（一九三九（昭和一四）年）には一九一一年六月十三日付けの「警務長依命訓達」（發高第四〇号）の抜粋があり、「通達文ノ冒頭ニ二重圈ヲ附シ別記暗號ヲ用スベキ」として「（一七）山形縣知事（一八）山形縣警察部長」等の略号が示されている。

*2「金井」の丸印。検閱課長金井元彦。書記官三等、従五勲六。検閱課の課長は書記官が任じられた。検閱課は一九四〇（昭和十五）年十二月六日に図書課を改称したものであるが、図書課課長と同様に書記官が任じられた。著書の『わが心の自叙伝』（神戸新聞出版センター1983）に「検閱課長時代」の項がある。情報局第四部検閱課課長を兼任（1942.1.22〜1943.4.1）。情報局は外務省、内務省、陸海軍省、通信省の情報宣伝、検閱事務を統合したもので、この申報も情報局での処理の可能性がある。

*3「香川縣知事」の角印。

*4「村川」か。丸印。当時の警保局事務官に村川重太郎がいた。

*5別の筆跡による書き込み。「…可然哉」は検閲実務担当の属官による事務官への報告の慣用表現である。

*6「沢西」の丸印。沢西健。「情報局職員名簿」(1945.4)の第二部検閲情報官の項に「内務省検閲官」の肩書きを以て載る。なお、同名簿の第一部放送課の嘱託に本多秋五の名も見える。

*7「12.16」は処分決定とその香川県への通知の日付。発禁処分となった単行本や雑誌にも同様の日付と担当者の書き込みがあり、その脇には「……へ通知スミ」というメモが多く見られる。

【参考】内務省警保局『単行本処分日誌』(以下より)

安 2 4 7 5		寧 申	
菊池寛 菊池寛戯曲集 第一巻		著者 題名	
第十年 八月廿五日(初版) 大正十三年 四月 十日 第 號		發行日附 號 數	
十二 月 十六 日		處分 月 日	
四六 版 三三二頁 安寧 風俗		型種 頁數 處分 種別	
日本橋区通四丁目五 番 春陽堂 納本 香川縣申報		發行地(所)名 納本申報ノ區別	
香川 (長尾) 警視庁 (飯田)		手配要領	
「特殊部落の夜」 ナル一篇ハ穢多ヲ 主題トセルモノナ レバ絶版方警告		摘 要	
西 沢		取扱 者印 起案 月 日	

【解説】

国会図書館には二冊の『菊池寛戯曲全集第一巻』が所蔵されている。インターネット上で蔵書検索をすると、請求記号「特001-8」の分には「出版物行政処分に関する用紙2枚添付」との付記がある。検閲から行政処分の行われる過程を示す好個の資料である。本書は一九二四(大正一三)年四月十日発行のもので、「廿版」と

*8「飯田」は警視庁の担当者名らしいが、警保局保安課『地方廳

特高事務分担表』(一九四二(昭和一七)年一月)にない。

*9「長尾」は「長尾爲征」。「地方廳特高事務分担表」(前出)に香川

県の特高の「右翼」担当の「警部補」とある。

*10明らかに差別を助長する可能性のある地名・人名は稿者が伏字にした。また、『菊池寛戯曲全集』(第一巻)そのものには検閲官による本文への傍線とその部分の天に丸印(全て赤鉛筆)があるので、その該当個所の指摘も行うべきであろうが、差別的表現の羅列にならざるを得ないので省略する。

なっている。初版発行が一九二二(大正一〇)年五月二一日であるから、相当に売れた本と見て良いだろう。

菊池寛「特殊部落の夜」は原題「恐ろしき、父恐ろしき娘(一幕二場)」として一九二四(大正一三)年九月に雑誌「新思潮」八号に草田杜太郎の筆名で発表され、第三次「新思潮」は巻末に次号の予告(五)を示しつつもこの号をもって終刊した。そして、一九二二(大正一

○)年には『菊池寛戯曲全集』(第一巻)に収録される。資料はその後の一九四二(昭和一七)年末の行政処分^①の経緯を示すものである。香川県高松市の住民が見付け、糾弾しようとした所を警察が止め、県知事名義での発禁処分申請を内務省に送った。資料はその申請書類であり、警保局の検閲官の処理手続きの痕跡が残っている。結果としては、「絶版警告」になっているが、これは実質的な発禁処分であった。「内務省史」^②は次のように述べている。

単行本や雑誌については「削除処分」とか「分割還付」という処置がとられた。これは該当する頁のみを削除して発行することを認めることであった。なお、「絶版警告」ということも行われた。今後の重版を禁ずるということである。これらは、いずれも発禁処分を前提として、発行者の便宜を考慮して考案された実際上の取扱いであった。

「発行者の便宜を考慮して」という詭弁はともかく、ここでは「絶版警告」という処分が実質的な発禁処分であったことに注目したい。売れている本で有れば、書肆の経済的打撃は避けられず、また、皇室や政府に都合の悪い本が次第に世間から抹殺されて行ったのである。内務省警保局篇「出版警察報」も小田切進篇「発禁年表」(前出)も『菊池寛戯曲全集』を採録していないが、今後は「絶版警告」も発禁処分の一形態に含めて考えるべきであろう。北川鉄夫は

水平社創立にほど遠い時期であったから、この劇は糾弾されずに終わったが、彼も後に顧みるところがあったのだろう。この戯曲は春陽堂版「菊池寛戯曲全集」第一巻(大一一〇年刊)には収められているが、その後の彼の著作集からは除かれている。^(下)

と述べている。しかしもし何かの書籍に再収録した場合には、その書籍は発禁処分を受けたのである。「絶版警告」とはそういう処分で

あったから、菊池が自ら著作集類に入れなかったとは言い切れない。

「特殊部落の夜」は以後の選集、全集類にはまったく入集していない。菊池寛は「続半自叙伝」^(下)で「自分は個人主義、自由主義、人道主義を標榜してゐた作家で、凡ての作品はさうした主張で貫かれてゐると思ふ」と述べているが、作品には若い菊池の差別意識が露骨に表出しており、自叙伝のこの記述は虚偽と言わざるを得ない。

菊池は前年の一九二〇(大正九)年十月の「父帰る」の上演の成功で評価を得て、それまでの全戯曲が見直されることになった。この全集の刊行はこの人気のなかでなされたものであろう。したがって、若い新人として本の編集方針への容喙は叶わなかったかったのかもしれないが、その後も口を噤み続け、旧悪を隠蔽した罪は重い。「個人主義者」や「ヒューマニスト」の名は相応しくない。

菊池自身は「菊池寛戯曲全集」の「後序」で次のように述べている。習作のつもりで「新思潮」に発表した。当時の劇壇はもとより、文壇も一瞥も与へて呉れなかつた。黙殺の淋しさ堪へかねて、自分は小説を捨て、小説に走しつた。

昨年来、自分が六年前に、書き捨てたこれらの旧作が次ぎぐに脚光を浴びた。

集中二三、まだ自分がリアリズムに到達しない前の作品が交じつて居る。「特殊部落の夜」「歌舞伎若衆」などが、それである。高松市の発行の新しい『菊池寛全集』は「特殊部落の夜」を入れていない。しかも前引の文章の「特殊部落の夜」「歌舞伎若衆」などが、それである。の一文から「特殊部落の夜」を抹消し、単に「歌舞伎若衆」などが、それである。」と削除を行っている。

また菊池の「後序」からは若書きの未熟な作品をそのまま再掲したかのごとき印象を受けるがそうではない。表題を「恐ろしき、父

恐ろしき娘」を「特殊部落の夜」へと改題した他に、本文にも校異が見られる。校異はセリフの括弧やルビの削除、句読点の加除、歴史的仮名遣いへの統一、誤植の訂正のほか、登場人物名や本文自体の変更もある。登場人物名は加藤健吉が佐藤健吉に、小野京太郎が小野秀太郎に、小笠又造が小笠作造に、捷二が勝二にと変更されている。日本の芝居の名詮自称の伝統からすれば、この変更は大きいと言えよう。本文の明らかな変更は八箇所にも及ぶ。(以下に一覧を掲げる。太字部分が変更部分である。)

- ① 三日に一度宛 ← 時々、
 - ② 保護を加える ← 保護を貴君方に加える
 - ③ 彼が此村を管轄 ← あれは此村を管轄
 - ④ 兇悪なればなるほど ← 兇悪なればそれ丈、
 - ⑤ 三十年來相愛の妻 ← 二十年來相愛の妻
 - ⑥ 教会の女王 ← 教会の女王
 - ⑦ 悪いことをした事が ← 悪いことが
 - ⑧ モーゼは石を投げつけられたあは、 ← あは、
- ここには作品を再構成しようとする明確な意図が見られる。一九二一(大正一〇)年の「菊池寛戯曲全集」刊行時点においてまでも差別的な認識を有していたのである。特に最後の「モーゼは石を投げつけられた」の一文の削除の意味は大きい。これによって牧師としての父親と「新しい女」としての娘との葛藤の背景が「宗教」から「部落」へと大きく転位することになり、改変された表題に統括されて更に差別的な言説空間を構成してしまっているのである。なお、⑥は「皇」の字が検閲に引っかかるので、作者または編集者の自主規制と思われる。

7 清水桂「勝利後の生活」の

「保管題号索引カード」[1943(S18)年]

印刷 一九四三(昭和十八)年十一月一日
発行 一九四三(昭和十八)年十一月五日
出版 六合書院

※奥付には十一月十九日、四九五〇部とある。

【解説】本書に付属した「保管題号索引カード」は現存しない。米国議会図書館でのマイクロフィルム撮影時には存在したが、国会図書館への返還までのどこかの過程で遺失したらしい。検閲事務の流れを示すものとして貴重な違例であるので、紹介する。また、前記理由から翻刻とともに特にコピー画像も示しておく。

課長	事務官	検閲官	主任	主査	決定	可然哉	安寧禁止	本書は大東亜戦争後の日本を背景に怪奇事件を展開せる低級なる誤樂小説なるが、既に題名からして現狀に即せざるばかりか、内容 ^{注2} は荒唐無稽なる空想と相俟つて極めて低劣にして之を現在の如き重大決戦下の國民一般に普及するは却つて悪影響ありと認めらるるに因り安寧禁止可然哉
(見意同長曹兵憲屋守)								
昭和十八年二月二十二日 警視廳(田中)手配済ミ								

函 號	題號							
	著譯者							
	發行人所							
	納本	年	月	日	入函	年	月	日
	取扱者	備考	装 判 冊 頁					
(保管題號索引カード)								

課長	事務官	検閲官	主任	主査
----	-----	-----	----	----

可然哉

決定

本書は大東亞戦争後の日本を背景に怪奇事件を展開せる低級なる娯楽探偵小説なるが既に題名からして現状に即せざるばかりか、内容は荒唐無稽なる空想と相俟つて極めて低劣にして

いま現在の如き重大決戦下の国民一般に當及するは却つて悪影響ありと認めらるるに因り此等書籍禁止可然哉

昭和十三年十二月二十二日
警現廳(田中) 押配済

見意月長曹兵憲(守)

注1 印面判読不能。

2 内容は女性が自分の死後に皮を剥いで本のカバーにしてくれと頼むというもの。

8 特高資料のなかの「新しき村」

(a) 『特高課主幹事務』昭和十三年より

理想郷運動

「新しき村」ハ大正八年十一月武者小路實篤一派ガ常ニ抱持セル理想郷ヲ實現セシムベク管下児湯郡木城村ニ設立シタルモノナルガ其ノ設立當時ハ會員数モ多ク又知識階級者来往頻繁ニシテ本縣思想界ニ多大ノ衝動ヲ與エ相當注意ノ要アリタルモ其ノ後武者小路實篤上京シ飯村稀トナリ且ツ財政難ヲ来シ現在男一六名女一〇名ノ在住會員ハ専ラ農耕ニ従事シ其ノ余暇ヲ以テ僅力ニ機關誌「新たしき村通信」(月刊)ヲ発行シ居ル狀況ナルガ本年二月四日共產村タル

英領パレスタイン、アフィキ村

ヨリ求交通信アリ回答ハ保留シオルモ尚留意視察中ナリ

(b) 『特高課事務概要』昭和十四年より

理想郷運動

「新しき村」ハ大正八年十一月武者小路實篤一派ガ常ニ抱持セル理想郷ヲ實現セシムベク管下児湯郡木城村ニ設立シタルモノナルガ其ノ設立當時ハ會員数モ多ク又知識階級者来往頻繁ニシテ本縣思想界ニ多大ノ衝動ヲ與エ相當注意ノ要アリタルモ其ノ後武者小路實篤狀況シ飯村稀トナリ且ツ財政難ヲ来シ

現在男一六名女一〇名ノ在住會員ハ専ラ農耕ニ従事シ其ノ余暇ヲ以テ機關誌「新たしき村通信」(月刊)ヲ發行シ僅ニ命脈ヲ維持シ來レリ 然ルニ各年同地ニ小丸川縣當電氣發電所設置セラルヽコトトナリ村ノ樞要地ハ之ニ買収セラレタル爲移轉ノ餘儀ナキニ至ル昨年、嵯峨町、八間郡、山田村、置設シタル、新設ノ近、各縣ニシテ、此間ノシタル、最モ、東京市ヲ以テ、據ルモノ、者、續、此、事、變、前、男、十六、名、女、十、名、ノ、會員ハ現在四三家族男其名女三名トナリ自然消滅ノ形トナりつ、つ、名、ル※2

【語注】

*1 Palestine。現アメリカ合衆国テキサス州。ダラスの南東160kmにある都市。本文に述べる如く交流が実現したかは分からない。

*2小さい字での書き込みは次年度版の報告書の為の書き込みと思われる。

【解説】雑誌「新しき村」（東京支部発行）は毎号の裏表紙に「村の精神」を掲げていた。しかし、一九三七（昭和十二）年十月号から「争鬭否定」の文言が注意を受けて削除されたという。^{（三）}当時、戦争を否定的に捉える言説は全て処分の対象となった。

資料内容は要するに目立った動きはしてはいないが、監察は継続すべきであるという意見になっている。これは内務省警保局保安課の所管の特別高等警察の見解であるが、一方で警保局図書課の「出版警察資料」（1939.1-3）は「ブックレビュー」で武者小路実篤『牟禮隨筆』（講談社）を取り上げ、三頁以上にわたって内容を紹介し、

著者は無心の境を望んではゐるものゝ、多分に俗世間的な境地に終始してゐて、しかも生來物事にこだはらぬ樂天的な風貌と靜かな清潔な明朗性とが、この隨筆の價值を高め讀む者をして心を淨からしむるに役立つてゐるやうである。

と絶賛している。また、同誌(1940.3)は実篤の『蝸牛物語』も取り

9 賀川豊彦講演会開催状況

上げている。「出版警察資料」は部外秘の雑誌で、配布範囲は明確でないが、同様の雑誌の「出版警察報」は各警察署長級以上であったという。

一九四五（昭和二〇）年一月一日～三日

賀川豊彦講演會開催状況報告						丸ノ内警察署 昭和二十年十月一日報	
<div style="float: right; width: 10%;"> 第九號様式（第十三條ノ規定ニ依ルモノ） *1 </div>							
多集衆運動會	會同ノ場所	會同年月日時	目的	會同者	演題及 辯士ノ氏名	制限禁止 注意解散檢束 等語ハモトキテ 論旨及狀況	
日比谷公会堂 *5	昭和二十年十月一日 至〃七時十分	賀川豊彦講演會	一般的一、三〇〇名	新日本の進路 内閣参与 *8	警戒員制服 私服 警部補一 巡查部長一 巡查二	主催 毎日新聞社	
<div style="text-align: center;"> 官房情報課 20. 10. 3 收第 6149 號 </div>							*2

《色彩注》「賀川豊彦講演會開催状況」及び傍線は赤と推定される

講演要旨

新日本の進路

賀川豊彦

我が国ハ此度歴史初ツテ以来ノ敗北ヲ喫シテ甚ダ

憂鬱ナルガ然シ此際忍苦努力スレバ世界

ヲ支配スル平和ヲ招来セシメルコトガ出来ルト思フ

新日本ノ進ム道即チ建設ニハ種々ノ問題ガアルガ

先ズ食糧問題ニ就テオ話しスルトシテ	警 視 廳
本年度ノ食糧状況並肥料状態、土地状況	
ヲ説明ノ後、今後ノ日本ハ雑穀ノ生産並ニ	
立休農業即チ樹実ノ利用栽培ヲ勸奨	
次イデ漁業纖維家屋の構造問題等ヲ論	
述シ最後ハ現在ノ配給制度ハ不賛成ニテ	
組合発達シ居リタル消費ナラバ闇モ起ラズ	
スル不備ノ配給制度モ不必要デアル	
新日本ニハ是非共、共同組合ヲ以テ共存共	
栄ヲ計ルベキデアルト組合制度ヲ強調スル処ア	
リ政体ニ就テ、君主利民主義ヲ採用	警 視 廳
スルモノテ之ヲ是非共実現シタイ云々	

【語注】

*1 一九三六（昭和一一）年に内閣情報委員会が置かれ一九三七（昭和一二）年には内閣情報部一九四〇（昭和一五）年には内閣情報局へと改組し、内務省警保局図書課（のち、検閲課に改称）、陸海軍報道部、外務省情報部の所管事務を一元的に統合し、情報、宣伝、文化の統制が強化された。

*2 「丸ノ内警察署」の角印。現、東京都千代田区有楽町一―九。会場となった日比谷公園の約百メートル東側にある。

*3 「中川」の丸印。

*4 「近藤」の丸印。

*5 皇居の南隣りの日比谷公園内の施設。

*6 「向家」の丸印。

*7 「飯島」の丸印。

*8 賀川は一九四五（昭和二〇）年八月二十二日には東久迩宮内閣の参与に、九月二四日には厚生省顧問になっている。また、十月五日には内閣より議院制度審議会委員に嘱託され、十一月二日には同じ日比谷公会堂での日本社会党結成式で「社会党万歳の音頭をとっている。さらに十二月二日には日本教育者組合の発足にとりなって会長になっている。翌一九四六（昭和二一）年には食糧対策審議会の委員になっている。

【解説】

本資料は戦後の資料でありながらも戦前の資料群に埋もれたものである。戦後の占領期の資料については多くの論究があるが、GHQによる統制の以前の戦中の思想警察の痕跡を残している。確かにGHQは闇市取引（Black Market Activities）に関する記述も連合国への批判と同列に統制したが、この資料はそれ以前のものである。山崎巖内相は「思想取締りの秘密警察は現在なお活動を続けおり、反皇室的宣伝を行う共産主義者は容赦なく逮捕する。…さらに共産党員であるものは拘禁を続ける。政府形体の変革、とくに天皇制廃止を主張するものは、すべて共産主義者と考え、治安維持法によって逮捕する」^{（千四）}と語っている。マッカーサー元帥による「政治、

信教ならびに民権の自由に対する制限の撤廃、政治犯の釈放」の指令は十月四日であるから、十月三日の日付印を持つ本資料はまさにその前夜のものである。「制限、禁止、中止 注意、解散、検束 等ヲ為シタルトキハ其ノ論旨及状況」の項に記載があり、「要旨」が付せられていることから、講演の「制限、禁止、中止 注意、解散、検束 等」が行われたと考えられる。

ここで述べられている主なものは「立体農業」と「組合制度」の確立である。「立体農業」は賀川が早くから提唱しているもので、一九三三（昭和八）年にはジョン・ラッセル・スミスの“Tree Cropping”を内山俊雄との共訳で『立体農業の研究』として上梓している。これは田畑の耕作を主体とし、果樹栽培と畜産とを加え、農家の財政の健全化を企図するものである。賀川自身も一九三五（昭和一〇）年七月に『立体農業の理論と実際』（農村更正叢書第三十巻）を出し、『樹木作物とその収穫』や『立体農業と農村設計』等の諸著でも一貫して提唱しているものである。

(一) 生悦住求馬『出版警察法概論』（松華堂1935）p87。

(二) 警保局篇『昭和五年中に於ける出版警察概観』（1936年）p26。但し、安寧の(14)・(15)、風俗の(6)は『昭和八年中に於ける出版警察概観』での追加。(1)の(お)は『昭和六年中に於ける出版警察概観』では削除。また一九三九（昭和一四）年の同様のものには「肇國ノ由来、國史ノ大本ヲ曲説紛更シ其ノ他我が國體

觀念ヲ動揺セシムル虞アル事項」、および(1)の(お)に類似した「男女抱擁接吻ヲ表現シタル繪畫寫眞ニシテ煽情的ナルモノ」（山形県特高課『出版警察執務要項』などの差異がある。管見の限り最も詳しいのは北海道庁『出版警察執務心得』（1935(S10).12)であった。これは比較的図書館等で参照しやすい『特高警察関係資料集成第23巻』（不二出版1993）にあるので参観されたい。『昭和六年中に於ける出版警察概観』も詳しい。

(三) 小田切秀雄／福岡井吉編著「増補昭和書籍新聞雑誌発禁年表」（全三巻）明治文献資料刊行会、一九八一（昭和五六）年。
(四) 生悦住求馬『思ひ出乃記』は奥付が無く、出版社、発行年月日等の書誌事項は故意に隠蔽されているように思われる。稿者は千葉県

千葉市の放送大学図書館所蔵本を閲覧させて頂いた。同図書館の目録には一九八七年の出版とあるが、その根拠は既に配架後のことで不明のことであった。検閲史研究では必読の資料の一つと思われるが、国会図書館法に基づく国会図書館への納本も無い為、旧悪の隠蔽を計ったものであるうか。内容は自己弁護で一貫しており、検閲については軍部の暴走を食い止めることに尽力したかのようには書かれており、反戦運動も含む多量の言論弾圧を自ら先頭に立って行った事実や、前掲の著書『出版警察法概論』については触れていない。公職追放指定についても「自発的辞任」とし、「結局は指定」されたと同じで官途公職にはつかなかった」と述べている。もちろん『公職追放に関する覚書該当者名簿』には生悦住求馬の名が明記されている。なお、『思ひ出乃記』は京都大学も所蔵しているが、他には見出し得なかった。他の図書館等に発見された方は、論文、報告等にその旨を記されたい。

(五)単行本の場合は『単行本処分日誌』や「保管題號索引カード」の一部が発見されている。後者はB7サイズで「題號」等の欄の他、75mm×85mmほどの空欄があり、禁止事由が書き込めるようになっていて、現物は国会図書館蔵本の青野季吉『社会思想と中産階級』に見ることが出来る。マイクロフィルムでは清水桂一『勝利後の生活』(米国議会図書館Microfilm Orient Japan75-96)にもあるが、国会図書館蔵本では失われている。この「索引カード」の中央下部には棒に合わせられるように溝が切られており、内部に棒を渡した箱に収められるようになっていて、返還作業時に紛失した可能性も高いが、別に未返還の多量の保管カードがもしかしたらあり、そこに差し戻されているのかもしれない。

(六)山形縣特高課「出版警察執務要綱」(一九三九(昭和十四)年)三頁には「取締ヲ爲スニ当リテハ左ノ事項ヲ參酌スルコト」とあり、「一、出版ノ目的 二、讀者ノ範圍 三、出版物ノ發行部數 四、頒布区域 五、社会情勢 六、不良箇所數」とある。

(七)奥平康弘『表現の自由①—理論と歴史—』(有斐閣1983)年²⁰²。

(八)復刻『発禁本関係資料集成④(内務省警保局篇)単行本処分日誌』(湖北社1977)。

(九)「發行所の變更に就て」という一文が巻末にある。「我が新思潮は今月を限りとして啓成社の手を離れる事になった。顧れば創刊以來啓成社が吾人に與へて呉れた好意と便宜とは同人一同の感銘措く能はざる所である、新思潮が文壇に何物かを寄與し得たとすれば夫は一に啓成社の賜と云はなければならぬ。吾人は別離に際して同社の隆盛を祈つて置かう。此の變更によつて本誌が休刊廢刊等を敢てせぬことは無論である。十月號は必ず新しき希望と力とを持つて現れて来るだろう。」と十月号の予告を出している。

(十)大霞会『内務省史④』(地方財務協会1971)。

(十一)北川鉄夫『近代文芸資料復刻叢書第七集 部落問題資料文献叢書第十卷—部落問題文芸作品解題—』(世界文庫1972) p87。

(十二)菊池寛『続半自叙伝』(「新潮」1947(322)6)所収、「菊池寛全集第二三卷」(高松市1995) p70。但し、「続半自叙伝」は戦後の文章であるが、全集は単に「半自叙伝」として戦前の「半自叙伝」に一体化させている。表題の省略についての解題もない。

(十三)奥脇賢三「検証『新しき村』」(農山漁村文化協会1998)参照。

(十四) 日高六郎『戦後思想を考える』(岩波新書2980) p3。一九四五(昭和二〇)年九月二六日に三木清が獄死させられた。それを聞いたロイター通信の記者は事情を調べ、山崎巖内相に面会した。この記事が「スターズ・アンド・ストライプス」紙への掲載は十月四日であり、マッカーサーによる統制解除指令はその日の夕刻のことである。